

第一章 おしやべりな地図

7

- 一 地形図の余白で地球を実感する 8
- 二 札幌の街路がずれている理由 13
- 三 由布院の大カーブはなぜできた 22
- 四 地図に刻まれた炭鉱町の盛衰 26
- 五 千葉県北部の数字地名 33
- 六 四日間だけ実在した市 37
- 七 日本にも存在した分断の鉄路 44

第二章 ウソつきな地図

49

- 一 情報追加工地地図 50
- 二 地図に記載されない場所 57
- 三 切れた鉄道も繋がる地図 61

第三章 気まぐれな地図

85

- 四 流麗な等高線を疑え 65
- 五 追加した鉄道が誤記だった 71
- 六 離れて見えても並走する線路 76
- 七 お詫びと訂正を読む 81

第四章 小悪魔な地図

117

- 一 地図だけが知っていた最高峰 86
- 二 マニア垂涎、幻の地図 92
- 三 シーボルト事件と竹島の地形図 95
- 四 日付変更線が変わった日 100
- 五 二年間だけ存在した「帝国」の証 111

- 一 地図が世界観を規定する 118

第一章 おしやべりな地図

7

- 一 地形図の余白で地球を実感する 8
- 二 札幌の街路がずれている理由 13
- 三 由布院の大カーブはなぜできた 22
- 四 地図に刻まれた炭鉱町の盛衰 26
- 五 千葉県北部の数字地名 33
- 六 四日間だけ実在した市 37
- 七 日本にも存在した分断の鉄路 44

第二章 ウソつきな地図

49

- 一 情報報を追加した地図 50
- 二 地図に記載されない場所 57
- 三 切れた鉄道も繋がる地図 61

第三章 気まぐれな地図

85

- 四 流麗な等高線を疑え 65
- 五 追加した鉄道が誤記だった 71
- 六 離れて見えても並走する線路 76
- 七 お詫びと訂正を読む 81

第四章 小悪魔な地図

117

- 一 地図だけが知っていた最高峰 86
- 二 マニア垂涎、幻の地図 92
- 三 シーボルト事件と竹島の地形図 95
- 四 日付変更線が変わった日 100
- 五 二年間だけ存在した「帝国」の証 111

- 一 地図が世界観を規定する 118

第一章 おしやべりな地図

7

- 一 地形図の余白で地球を実感する 8
- 二 札幌の街路がずれている理由 13
- 三 由布院の大カーブはなぜできた 22
- 四 地図に刻まれた炭鉱町の盛衰 26
- 五 千葉県北部の数字地名 33
- 六 四日間だけ実在した市 37
- 七 日本にも存在した分断の鉄路 44

第二章 ウソつきな地図

49

- 一 情報報を追加した地図 50
- 二 地図に記載されない場所 57
- 三 切れた鉄道も繋がる地図 61

第三章 気まぐれな地図

85

- 四 流麗な等高線を疑え 65
- 五 追加した鉄道が誤記だった 71
- 六 離れて見えても並走する線路 76
- 七 お詫びと訂正を読む 81

第四章 小悪魔な地図

117

- 一 地図だけが知っていた最高峰 86
- 二 マニア垂涎、幻の地図 92
- 三 シーボルト事件と竹島の地形図 95
- 四 日付変更線が変わった日 100
- 五 二年間だけ存在した「帝国」の証 111

- 一 地図が世界観を規定する 118

終章

いま、地図があぶない

- 二 地図を国策宣伝に利用せよ 126
- 三 戦後封印された地図 132
- 四 万博に刻印された米ソ対立 135
- 五 麗しき中華民国地図 150
- 六 外地の地図を作成せよ 155
- 七 戦時中の大東亜共栄圏地図 165
- 八 北方領土の過去と現在 172
- 九 毒の地球儀問題発生 181

- 一 国土地理院地形図の危機 192
- 二 ネット時代に漂う暗雲 195

あとがき 198

第一章 おしやべりな地図



鉄道紀行で知られた宮脇俊三さんは大の地図好きで、「時刻表2万キロ」などの初期作品ではすべて自分で挿入図を描いた。「すこしでも定価を安くするため」と自著で弁明していたが、よほどの地図好きでなければ、精密な路線図を三九枚（時刻表2万キロ）も描きしめない。

宮脇さんのバス紀行（ローカルバスの終点へ）に同行したことがある。那覇からバスを乗り継いで沖縄最北端をめざしたのだ。宮脇さんはバスの最前列左側の席にいつも陣取り、あらかじめバスルートに線を引いた五万分一地形図を広げて、景色と地図をずっと見比べていた。そして、ときどき私の方を振り返って、「もうすぐ××が見えますよ」と微笑んで教えてくれた。

嗚呼、地図に関しては、まだまだ書ききれないエピソードが多すぎる。

この本が、地図好きの人にはもちろん、今までどちらかというと地味だった人にも楽しんでもらえたとしたら、こんなにうれしいことはない。

最後に、一行も書き出していないにもかかわらず、面白いと言って出版を薦めてくれた文藝春秋の細井秀雄、船越博貴の両氏。このふたりがいなければ、本書は世に出ていない。

そして、執筆中、家じゅう地図だらけにしても静かに見守ってくれた家族に感謝する。

二〇〇八年七月一日

竹内正浩

竹内正浩（たけうち まさひろ）

フリーランス・ライター。1963年愛知県生まれ。幼少より地図に親しみ、北海道大学卒業後、JTBに入社。出版部門で長年旅行誌などの編集に携わる。主な著書に『戦争遺産探訪日本編』『黄金世代の旅行術』（以上文藝春秋）、『軍事遺産を歩く』（筑摩書房）、『世界まるごと謎解き地図』（講談社）、「みんなの地理学研究会」名義）、小学館ウイークリーブック「古寺を巡る」「戦国の日本史」のメインライターの一人でもある。

文春新書

651

地図もウソをつく

2008年（平成20年）8月20日 第1刷発行

著者 竹内正浩
発行者 細井秀雄
発行所 談文藝春秋

〒102-8008 東京都千代田区記尾井町3-23
電話 (03) 3265-1211（代表）

印刷所 理想社
付物印刷 大日本印刷
製本所 大日本印刷

定価はカバーに表示しております。
万一、落丁・乱丁の場合は小社製作部宛お送り下さい。
送料小社負担でお取替え致します。

©Takeuchi Masahiro 2008 Printed in Japan
ISBN978-4-16-60851-1